

社会科標準問題

平成28年度

注意

1. 問題は1から5までであるが、そのうち4題を解答すること。どの4題を解答するかは、学校の指示に従うこと。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に指示通り記入すること。
3. 所要時間は50分とする。
4. 解答用紙の選択した(または指定された)問題番号の□に○を記入すること。

大阪府高等学校社会(地歴・公民)科研究会

1 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

マンガなどで悪と善の間で揺れ動く主人公の頭の上に、悪をささやく悪魔とそれを押し止めようとする天使の二つが描かれることがある。そこでは悪魔と天使が、欲望と良心のたとえであったりする。一方、(a)ギリシア悲劇の主人公オイディプス王の行為に迷いはない。それが悲劇であるのは、自らは善き行いを為そうとしながら、結果として父親を殺し母をめとるといふ悪をなしてしまうことにある。人間にとって善や悪とは何であろう。また、人間は悪を避けることができるのだろうか。

ソクラテスのいう「知行合一」によれば、[A]のだが、自らの運命を知る由もないオイディプスは結果的には悪への道を突き進むしかなかったといえる。プラトンは師ソクラテスが求めた知を、すべての善悪の根拠たる善のアイデアに求めた。そして、善のアイデアを知るものは、時として悪に陥りがちな欲望や気概を善へと導く役割を担うことになる。善と悪の間の揺れ動きをプラトンは、魂の部分の間、あるいはポリスの成員の間の拮抗として描き出したのである。かたや、(b)アリストテレスは、よき行いをなす徳は、試行錯誤を繰り返すなかで身につくものとした。人はあらかじめ善を知るのではなく、さまざまな行為の善し悪しを経験する中で、中庸にかなった適切な行為を行うようになるのである。そしてその中庸を判断するのが思慮の働きとされる。このような理性優位のあり方は(c)ヘレニズム期にも共通している。

これに対して、(d)キリスト教は理性に導かれる善行というものに疑いの目を向ける。オイディプスがそうであったように、人間には善を選ぶ自由がないではないかと問いかける。キリスト教に回心した(ア)が「わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである。」とその心情を吐露する時、先鋭化された形で意志の自由が問題とされている。キリスト教においては、原罪を負う人間は悪しかなせない存在であり、アウグスティヌスがいうように(イ)によってのみ救われるのである。ちょうど(e)影がそれ自体では存在せずに、ただ光の遮断によって生まれるように、悪は善の欠如にすぎないのかもしれない。いずれにせよ、善と悪を対比させる考え方は、遠くゾロアスター教にまでたどれ、(f)イスラームや仏教にもその影響が見られるとされる。

すべてを知ったオイディプスは、自ら両眼を刺し流浪の旅に出たという。(g)源流の思想家たちなら、この結末にどのような解釈をほどこすのだろうか。

問1 文中の空欄(ア)(イ)に入れるものとして最も適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

- (ア) ① ペテロ ② パウロ ③ ヨハネ ④ モーセ
(イ) ① 神の恩寵 ② 律法の遵守 ③ 罪の告白 ④ 隣人愛の実践

問2 下線部(a)に関連して、次のア～ウは、古代ギリシアにおいて活躍した人物についての記述であるが、それぞれ誰のものか、その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 「あらぬものはあるものと同じくある」として、空虚の存在を認めた。
イ 「万物の尺度は人間である」と唱え、価値の基準の相対性を主張した。
ウ 「人は同じ川に二度入れない」という言葉で、変化が世界の本質だとした。

- ① ア ヘラクレイトス イ デモクリトス ウ プロタゴラス
- ② ア ヘラクレイトス イ プロタゴラス ウ デモクリトス
- ③ ア デモクリトス イ ヘラクレイトス ウ プロタゴラス
- ④ ア デモクリトス イ プロタゴラス ウ ヘラクレイトス
- ⑤ ア プロタゴラス イ ヘラクレイトス ウ デモクリトス
- ⑥ ア プロタゴラス イ デモクリトス ウ ヘラクレイトス

問3 文中の空欄 [A] に入れるものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 知識と行為の一致は、イデア界という理想の世界でのみ成り立つ
- ② 何が善かを知る者が、知っていながら悪をなすことはあり得ない
- ③ 知らないことを知らないと認め、行為することが本当の善である
- ④ 善をなそうとする者にとっては、その意志自体がすでに善である

問4 下線部(b)の内容を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 信頼していたのに一度痛い目にあっただけで、二度とその友人に近づかないようにした。
- ② 自宅で何度も復習したので、苦手だった数学の定期考査で納得のゆく点を取った。
- ③ 社交の場に慣れていなかったが、最近では気の利いた受け答えができるようになった。
- ④ 見知らぬ人に対して好意ある行いを繰り返すことは、やり過ぎることではない。

問5 下線部(c)に関連して、次のア～ウは、ヘレニズム期の人物について述べたものであるが、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- ア アレクサンドロスは、若い頃に教えてもらったアリストテレスの考え方を生涯持ち続け、ポリス的人間としての理想のあり方を追求した。
- イ キプロスのゼノン、宇宙を貫くロゴスが人間にも備わっており、それに従って感情を抑制するアパテイアを理想とした。
- ウ エピクロスは、精神的快楽こそ最上のものであり、それを得るためには心を乱す公的生活から退き「隠れて生きる」ことを提唱した。

- ① アー正 イー正 ウー正 ② アー正 イー正 ウー誤
- ③ アー正 イー誤 ウー正 ④ アー正 イー誤 ウー誤
- ⑤ アー誤 イー正 ウー正 ⑥ アー誤 イー正 ウー誤
- ⑦ アー誤 イー誤 ウー正 ⑧ アー誤 イー誤 ウー誤

問6 下線部(d)に関連して、次の3つの言葉A～Cの内容と、それらに対応するイエスの言葉ア～ウの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- A 隣人愛 B 神の愛 C 律法の内面化

- ア 「悪い者にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らせて下さる」
- イ 「淫らな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである」
- ウ 「誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をもむけなさい」

- ① A - ア B - イ C - ウ ② A - ア B - ウ C - イ
- ③ A - イ B - ア C - ウ ④ A - イ B - ウ C - ア
- ⑤ A - ウ B - ア C - イ ⑥ A - ウ B - イ C - ア

問7 下線部(e)の考え方はプラトンの思想を背景としているとされるが、プラトンの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① この世界に完全な光が存在しないように完全に善である行為は存在せず、ある行為が善いのは善のイデアとの関連で善とされるのである。
- ② 善のイデアは人間の手には届かない一つの理想にしかすぎないが、永遠を求めるエロースという光を失い、理想を忘れることから悪が生じるのである。
- ③ 善のイデアが太陽に喩えられるように、その光は罪ある者・病める者にこそ降り注がれているのである。
- ④ 夜には月の輝きでしか太陽の光がわからないように、現象界の個物がなければ、そもそも善のイデアは存在しえない。

問8 下線部(f)のイスラームについて述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イスラームには、最後の審判という考え方はなく、死後に来世が存在することはないとされる。
- ② イスラームは厳格な一神教を説き、モーセやイエスはアッラーを否定する悪魔であるとする。
- ③ イスラームの聖典『クルアーン』には、善を勧める記述はあっても、悪を禁じる記述はない。
- ④ イスラームの教えにも、ユダヤ教やキリスト教と同じような、悪魔と天使や、天国と地獄がある。

問9 下線部(g)にある解釈として可能なものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① キリスト教では、オイディプスは悔い改めたのであり、すでに原罪はなくなり、目に見える世界を否定した神の国に生きることになる。
- ② イスラームの立場では、オイディプスの運命もまた一つの天命であり、彼はすべてを知ったのち、それらを神の天命として受け入れたのである。
- ③ ソクラテスによれば、オイディプスは無知から生じた自らの行為は悪ではないと確信し、善悪を超越した次元に生きることになったことになる。
- ④ アリストテレスの考え方からは、オイディプスが自ら善とした行為も、中庸に反していることは確実であり思慮に足りなかったとされる。

2 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

夢や高い志をもつことは、一般に良いことだとされる。しかし現実には、夢や志が大きければ大きいほど、失敗や挫折の憂き目に遭う可能性も高くなる。では、高く尊い志を抱いた先哲たちは、失敗や挫折をどう捉え、どのように向き合ったのだろうか。

多くの先哲は、たとえ目的が達成できなくても途中で諦めなかった。例えば、(a) 仏教の始祖ゴータマ=シッダッタは、悟りを得るため無息禅や激しい断食など命懸けの(b) 苦行を6年間も続けたが、(c) 悟りを得ることはできなかった。そこで彼は、悟りに至る他の方法を見出そうと決意して苦行を放棄し、体力を回復した。そして菩提樹のもとで(d) 禅定による思惟観察を凝らすことによって、目的を成就したのである。また、(e) 朱子と並び中国近世の二大儒とされる王陽明は、若き日に魂のより所を求めて朱子学を学び、格物論の教えを実践するために庭前の竹を切り、その理を窮めようとしたが、ノイローゼになってしまった。その後も朱子学の実践に心血を注いだが、苦悶し続けた。しかし後年、官吏となって僻地へ左遷された際、そこでの体験により、格物致知とは(ア)と理解するに至った。彼らは、伝統的な修行法や当時主流であった学問に根気強く挑んだが、度重なる挫折を経た末に、他の新たな方法や考え方によって自らの真の道を掘り当て、挫折を乗り越えたのである。

考え方や価値観の転換によって、人目には失敗や挫折と思われるものを、相対的に捉える先哲もいた。(f) 老子や荘子がその例である。『老子』には「災禍には幸福が寄りそっており、幸福には災禍がひそんでいる。だれがその窮極を知っていようか。そもそも絶対的的正常などはないのだ」との記述がある。また、荘子の万物斉同の教えによれば、失敗も成功も相対的なもので、それらは人間の勝手な価値観によるものである。彼らの言葉や教えからは、狭い視野を広げ、長期的展望を持ち、発想の転換をするためのきっかけを得ることができるだろう。

一方、生前にはその功績や主張が公には認められなかったが、死後時代を経て、その教えが評価され、現代にまで強い影響力をもつ先哲もいる。(g) 孔子と孟子がその代表だろう。生きた時期は異なるが、彼らは乱世に、徳治主義や王道政治など徳に基づく政治論を説いて諸国を巡歴した。しかし、(h) 現実的で即効性のある富国強兵策を求める諸侯に、彼らの思想は用いられなかった。そして苦難の旅の果て、とうとう遊説を断念し、郷里に戻って弟子の育成に努めたのである。志が遂げられない無念に、彼らはどう向き合ったのだろうか。孔子は「人知らずして慍(うら)みず。また君子ならずや」と述べている。不遇に耐え、人事を尽して天命を信じ、後世に希望を託したのかもしれない。

失敗や挫折には、怠慢や不注意などを原因とするものもある。しかし、先哲たちの失敗や挫折は、努力に努力を重ねた上での一時的な状態であった。また、彼らの求めたものは、私利私欲を満たす独善的なものではなく、普遍的真理や天下泰平の道であり、公共の善であった。私たち人間は不完全な存在なので、必ず失敗や挫折を経験する。そのようなとき、先哲の生き様や思想は、私たちに正しい反省を促し、立ち上がる勇気を与えてくれるのではないだろうか。

問1 下線部(a)に関連して、次のア・イは仏教以前の古代インドの思想についての記述であるが、その内容の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

ア 紀元前15世紀頃から侵入してきたアーリア（アーリヤ）人によって、バラモン教を中心とする文化が形成された。バラモン教は、神々への賛歌や祭祀の呪文を記した『ヴェーダ』を聖典とし、天・地・太陽などの自然神を崇拝する多神教である。

イ ウパニシャッド哲学によれば、人は業による輪廻を繰り返すが、ブラフマンから与えられた宇宙の根本原理を厳格に守れば、個々の人間の実体であるアートマンは、死後極楽の世界で永遠の命を与えられるとされる。

- ① アー正 イー正 ② アー正 イー誤
③ アー誤 イー正 ④ アー誤 イー誤

問2 下線部(b)に関連して、ジャイナ教では徹底した苦行と不殺生の実践が重視されるが、不殺生を表す言葉として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アヒンサー
② カルマ
③ ニルヴァーナ
④ ダルマ

問3 下線部(c)に関連して、悟りを得たブッダの説いた四法印の説明として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 四法印のうち諸行無常とは、物も心も含めてすべての現象は、一瞬も停止することなく常に生滅変化するという真理である。
② 四法印のうち諸法無我とは、輪廻を繰り返す本体である永遠不滅の我は、宇宙の原理にほかならないという真理である。
③ 四法印のうち一切皆苦とは、人生のすべては苦しみにほかならず、自分の思いどおりにはならないものであるという真理である。
④ 四法印のうち涅槃寂靜とは、無常・無我の理法を悟り、物欲や我執を捨て去れば、煩惱の炎の消えた静かな安らぎの境地に至るとい真理である。

問4 下線部(d)の禅定は、大乘仏教における六波羅蜜の一つであるが、大乘仏教についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 大乘仏教の大乗とは、大きな舟で多くの人々を救済するという意味であり、自己の悟りはいっさい求めず、ひたすら他者の救済だけを目指して献身する菩薩を理想とする。
② 無著（無着）と世親は、空や無自性という言葉を用いて、あらゆるものには固定的な実体がないという、ブッダの説いた無我や縁起の法を徹底させた。
③ 竜樹は、もののあらわれは、心がつくった表象にほかならず、あらゆる事物は実在しないという唯識の思想を確立した。
④ 人間だけではなく、動物を含むすべての生きものは、仏となるべき性質や能力としての仏性を具えているということが認められた。

問5 下線部(e)に関連して、朱子は『礼記』の中の一編を『大学』『中庸』として取り出し、独立の経典とした。次の文章は『中庸』と朱子によるその注釈の一節であるが、この内容として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

或いは生まれながらにして之を知り、或いは学んで之を知り、或いは困（くる）しんで之を知る。其の之を知るに及んでは一なり。或いは安んじて之を行い、或いは利して之を行い、或いは勉強して之を行ふ。其の功を成すに及んでは一なり。

〈注釈〉

生まれながらにして五達道（＝人倫の道）を認識しているもの、すなわち生まれつき完全な道徳的人間（＝聖人）、そういう人間もいるであろう。しかし、またある人々は生まれつきには五達道を認識してはいないが、学問することによってそれを認識する。またある人々は生まれつきの素質も聡明でなく、学問してもなかなか効果が上がらぬが、発奮して心を困（くる）しめて、苦心惨憺したあげく、やっとのことで五達道を認識する、そういう人もあるに違いない。しかし、その窮極の到達点についていうならば、要するに同じ道徳的認識なのであって、その間に何の差別もないのである。知に対して行の場合も同一である。何ら意志的な緊張なしに自然に五達道を実践する人（＝聖人）がいれば、五達道を行うことが利（良いことである）と知って初めて実践する人もいる。さらにまた、生まれつき何らの努力も要しないのでもなく、その利なることを知るといふのでもなく、ひたすら努力を重ねて実践する者もあるだろう。たしかにこの3つの実践の間に段階のあることは否定できないが、それは単に過程についてだけ言えるのであって、その実践作業を完成し終わった地点について言えば、いずれも等しく五達道を実現しているという点で、何ら差別はないのである。

- ① 生まれつき人倫の道を認識し、自然に五達道を実践することのできる完全な人間としての聖人が、最も早く深く五達道を実現できるのである。
② 学問によって人倫の道を認識し、良いことであると知ってその道を実践する人と、そうとは知らずに実践している人とでは、次第に大きな差が生まれてくる。
③ 才能に恵まれていなくても、苦しみつつも学んで努力して人倫の道を実践し尽くすならば、最終的に聖人と同じ段階に達することができる。
④ 向上心をもち、さらに学ぼうと努力を重ねる生まれつき聡明な人と、人倫の道を学ぼうとせず実践しようとしめない人との間に、大差はないのである。

問6 文中の空欄（ア）に入れるのに最も適切な文章を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 理を事物に求め、偏見や思い込みを排してありのままを観察することにより、理を導き出すことだ
② 理を事物に求めるのではなく、ひたすら坐禅をすることにより心身を自在の境地に至らしめることだ
③ 理を事物に求め、つつしみによって欲を捨て、努力することにより天の理と一致することだ
④ 理を事物に求めるのではなく、自らの本心により具体的な実践の場に即して理を生み出すことだ

問7 下線部(f)に関連して、老子・荘子に代表される思想を道家の思想というが、道家の説いた道についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 道家の説く道とは、井戸に落ちそうな子どもがいれば助けようとするのが人の道である、というように、人間であるならば当然行すべき道徳的な道のことである。
- ② 道家の説く道とは、日本における武士道や茶道などのように、一定の形式と作法に則りながら精神を統一して鍛錬を重ね、人格を高める修養の道のことである。
- ③ 道家の説く道とは、人間が認識することが可能な諸現象の奥にある理想世界のような、世界の本当のあり方を探求する哲学の道のことである。
- ④ 道家の説く道とは、あらゆるものに恵みを与え、万物をありのままに生み育てる、宇宙の根源的存在としての道のことである。

問8 下線部(g)に関連して、次の文章は、孔子や孟子の理想像についての説明である。文章中の(ア)(イ)に入れる語句の組合せして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

孔子の理想像である君子とは、他者への愛やその表れである(ア)の実現を目指して不断に努力を重ねる者のことである。孔子は、民衆の上に立つ指導者は、かたよりのない徳を備える君子をめざして自分の行いを正しくし、その感化によって人を治めるべきであると考えた。孟子は、四徳を備え、不動心である(イ)がみなぎり、どんな困難にも負けず、徳を実践しようとするような人を大丈夫とよび、理想とした。

- ① ア 仁と礼 イ 浩然の気
- ② ア 仁と礼 イ 本然の性
- ③ ア 忠と恕 イ 浩然の気
- ④ ア 忠と恕 イ 本然の性

問9 下線部(h)に関連して、春秋・戦国時代の諸侯の求めに呼応して現れた、様々な思想家たちを諸子百家という。次のア～ウは諸子百家の思想についての記述であるが、それぞれ誰の思想か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ア 「天下兼ねて相愛すれば則ち治まり、交(こもごも)相悪(にく)まば則ち乱る」と説き、自分と他者を平等に愛し利することを重視し、侵略戦争を否定する非攻を唱えた。
- イ 「人の性は悪にして、その善なるものは偽なり」と説き、人間の本性は欲望であり、そのままにしておくとは必ず争い奪い合うので、礼により本性を矯正すべきだと唱えた。
- ウ 「戦わずして人の兵を屈するは、善の善なる者なり」と説き、直接的な軍事力の行使はできるだけ避け、政略・戦略の段階で勝利することが最上の策だと唱えた。

- ① ア 荀子 イ 墨子 ウ 孫子
- ② ア 荀子 イ 孫子 ウ 墨子
- ③ ア 墨子 イ 荀子 ウ 孫子
- ④ ア 墨子 イ 孫子 ウ 荀子
- ⑤ ア 孫子 イ 荀子 ウ 墨子
- ⑥ ア 孫子 イ 墨子 ウ 荀子

問10 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 長い年月を厳しい苦行に費やしたが、悟りを開くことができなかつたことから、ゴータマ=シッダッタは、涅槃の境地に至る手段として修行や禁欲は無用であることを悟った。
- ② 朱子学を学んだものの事物の理を窮めることができなかつた王陽明が、苦悩の末に独自の新たな思想を形成したように、必ずしも旧来の考え方にこだわる必要はない。
- ③ 怠慢や不注意によって他者に迷惑をかけたとしても、老子や荘子の考えによれば、それは相対的なものなので反省する必要はなく、謝罪をする必要もない。
- ④ 孔子や孟子の思想は難しく、理解するのに時間がかかるために諸侯に採用されなかつたことから、相手のレベルに応じ、かみ砕いて説明することの重要性を学ぶことができる。

3 次の文章を読んで下の問いに答えよ。

日本に仏教が伝わったのは6世紀半ば以降といわれるが、当初は異国の神として日本土着の神々といかに折り合いをつけるかが課題となっていた。しかし、鎮護国家のための宗教としての性格を前面に打ち出すことで(a) 仏教は徐々に受け入れられ、奈良時代には官立の仏教寺院が各地に設けられ、国家統合の支柱的役割を担うことになったのである。いわゆる(b) 南都六宗といわれる奈良仏教は、当時の中国の学問としての仏教を研究するもので、今日でいう学派あるいは大学の学部に対応するものであったため、民衆の救済を視野に入れるものではなかった。

そこで、(c) 行を中心に据えて真の僧侶を養成する実践的な仏教を日本で確立しようとしたのが平安期の最澄であり、空海であった。最澄は、中国天台宗に(d) 法華一乗思想を学んで日本天台宗を開いたが、密教にも接近して空海の真言宗と並ぶ加持祈禱を主とする平安仏教を確立した。この平安期には、日本古来の神信仰と仏教との融和が積極的に行なわれ、いわゆる神仏習合という信仰形態が日本に定着するようになったといわれる。しかし、平安仏教もその救済対象はあいかわらず国家であり、支配階級としての貴族であったため、民衆救済は平安末期まで待たねばならなかった。平安末期の政治的混乱は日本仏教に新しい息吹を吹き込んだ。その混乱の中で、すでに天台宗にも取り入れられていた浄土教信仰が急速に広まったのである。(e) 末法思想の流行とあいまって、人々は切実に浄土往生を求め、その願いに答えたのが源信の(f) 『往生要集』であったが、真に民衆を視野に入れた救済論を展開したのが鎌倉仏教の先駆者、法然であった。彼は、末法の世での救いは難行を要する聖道門ではなく、易行を旨とする浄土門に拠るしかないと断言して、無学な民衆でも実践できる専修念仏を説いたのである。彼が大胆に行なった多くの法門の中からの選択は彼以降の鎌倉仏教に大きな影響を与え、ひたすらな行の実践による救済(=解脱)が日本的仏教の根幹となるのである。

鎌倉期にほぼ出そろった日本仏教の各宗派は、その後、それぞれに紆余曲折を経ながらも江戸時代には幕府の寺檀制度という宗教統制とあいまって一定の安定を見ることになる。しかし、この制度の下で現代にまで至るいわゆる「葬式仏教」としての役割が日本社会に定着したものの、宗派相互の教義論争は禁止され、宗派内部においても新たな教義解釈が許されないなど、幕府の統制には厳しいものがあつた。そんな中でも、各宗派では戒律復興運動が起こったり、(g) 儒学や国学(神道)からの廃仏論に反論するなど、時代状況に対して敏感に対応しようとする者も現れた。

明治になって、神道国教化の動きの中で元年に神仏分離令が出され、いわゆる廃仏毀釈の運動が全国を駆けめぐり、(h) 仏教界は大きな打撃を受けた。しかし神道国教化は挫折し、神道が国家神道として憲法の信教の自由の枠外におかれたことで、仏教に対する神道からの攻撃は収束したといえることができる。しかし、時代が次第に軍国主義化するなかで仏教のみならずキリスト教や明治以降に生まれた新宗教、さらに(i) 神道までもが国家の統制下に置かれて自由な宗教活動に制約を受けることになる。

問1 下線部(a)に関して、仏教が受け入れられる過程に関わった人物についての説明文の正誤の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- ア 聖徳太子は、『三教指帰』を著して儒教、仏教、道教のそれぞれの特徴を比較検討しながら仏教が特に優れた教えであることを説いた。
- イ 鑑真は日本の要請を受けて来日し、正式な僧侶に不可欠の授戒を行うための戒壇を東大寺に設けるなど、日本仏教の発展に寄与した。
- ウ 行基は、日本古来の山岳信仰と密教を中心とした仏教さらに道教をも融合させた修験道を創始し、仏教の日本的受容の一つの形を示した。

- | | | | | | |
|-------|-----|-----|-------|-----|-----|
| ① アー正 | イー正 | ウー正 | ② アー正 | イー正 | ウー誤 |
| ③ アー正 | イー誤 | ウー誤 | ④ アー正 | イー誤 | ウー正 |
| ⑤ アー誤 | イー正 | ウー誤 | ⑥ アー誤 | イー誤 | ウー誤 |
| ⑦ アー誤 | イー誤 | ウー正 | ⑧ アー誤 | イー正 | ウー正 |

問2 下線部(b)に関して、次の各宗派のうち南都六宗に属さないものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 華嚴宗 ② 法相宗 ③ 時宗 ④ 律宗

問3 下線部(c)に関して、次の文章は受戒後十二年間の山岳修業を課して菩薩を養成することを朝廷に願い出たものであるが、作者および文章に関する説明の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

国宝とは何物であるか。宝とは道を求める心である。道を求める心をもつ人を、名づけて国宝という。だから古人はいつている。直径一寸の玉十個が国宝ではなく、世の一隅を照らす人が国宝である、と。……そこで、道を求める心のある仏の子を、西の方インドでは菩薩と称し、東の方の中国では君子というのである。悪いことは自分に向け、好いことは他人に与え、自分を忘れて他人に利益を与えることは、慈悲の究極である。仏教の中で、出家に二種類がある。その一つは小乗の仲間であり、第二は大乗の仲間である。道を求める心のある仏の子、これはこの大乗の出家のことなのである。……およそ、大乗の仲間の者は、得度をさせた年に、仏の子となる戒を受けて菩薩僧とし、その受戒の証明書には官印を押すことを請う。

作者：A 空海 B 最澄

説明：

- あ：彼は、国の宝は私を捨てて他者を利することに専念する菩薩であり、その菩薩を養成することが肝要であると『山家学生式』に記して、新たな戒壇を設けることを朝廷に願い出た。
- い：彼は、世の一隅を照らす人が国宝であるとして、大乗、小乗にかかわらず、顕教としての『法華経』に基づいた教えを修め、さらに密教を修めるならば国家の安寧秩序は保たれるとその著『十住心論』に記した。

う：彼は、国の宝は私を捨てて他者を利することに専念する菩薩であり、その菩薩を養成することが肝要であると『十住心論』に記して、新たな戒壇を設けることを朝廷に願い出た。

え：彼は、世の一隅を照らす人が国宝であるとして、大乘、小乗にかかわらず顕教としての『法華経』に基づいた教えを修め、さらに密教を修めるならば国家の安寧秩序は保たれるとその著『山家学生式』に記した。

- ① A-あ ② A-い ③ A-う ④ A-え
⑤ B-あ ⑥ B-い ⑦ B-う ⑧ B-え

問4 下線部(d)についての次の文章中の空欄に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

法華一乗思想とは、釈迦が説いた悟りへの道には声聞乗、縁覚乗、(あ)乗と三つあるが、それらはすべて『法華経』に説かれるように一乗に帰するとして、すべての人が(い)できるとする考え方である。

- ① あ 阿羅漢 い 成仏 ② あ 阿羅漢 い 輪廻
③ あ 如来 い 成仏 ④ あ 如来 い 輪廻
⑤ あ 菩薩 い 成仏 ⑥ あ 菩薩 い 輪廻

問5 下線部(e)の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 釈迦の死後、正法、像法を経て時代は下降し、その後の末法の時代には釈迦の教えもその教えに従って修業する者も、修業の結果悟りを開く者もない時代を迎えるとする思想。
② 釈迦の死後、正法、像法を経て時代は下降し、その後の末法の時代には極楽浄土に往生して釈迦に代わって阿弥陀仏の説法を聴いて悟るしか救いはないとする思想。
③ 釈迦の死後、正法、像法を経て時代は下降し、その後の末法の時代には釈迦の教えのみが残り、修業する者も、修業の結果悟りを開く者もない時代を迎えるとする思想。
④ 釈迦の死後、正法、像法を経て時代は下降し、その後の末法の時代には釈迦の教えも消滅し、未来仏としての弥勒仏の出現を待ち望むしかない時代を迎えるとする思想。

問6 下線部(f)に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① この書では京の町で行われていた空也の踊り念仏を正統な念仏として評価しており、念仏しながらの踊りが各地に残る盆踊りの起源だともいわれている。
② この書で勧められている念仏はおもに心に阿弥陀仏を念ずる観想念仏で、法然が勧めた称名念仏とは異なるものである。
③ この書には「厭離穢土 欣求浄土」という言葉が記されており、汚れた現実世界を仏の浄土に改めるための政治的変革が説かれている。
④ この書は、様々な経や論書を引用して諸仏が建国した多くの浄土を比較検討して、大日如来の浄土がもっとも優れていると結論づけている。

問7 下線部(g)に関して、国学者の本居宣長が仏教を排斥する理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 仏教は人の生まれつきの心を偽って理屈で塗り固めようとするものであり、そもそも中国から伝わった外来の思想に日本人の生き生きとした感情は語れないのである。
② 仏教は出家修行者に剃髪を課しているが、親から授かった身体に手を加えるということは親をないがしろにすることである。
③ 仏教は形ある仏像を介して仏を敬っているが、そもそも神仏は形に表すことができないからこそ尊いのであり、仏像を拜む仏教はまやかしである。
④ 仏教は万物に存在する上下前後の秩序をないがしろにするものであり、君臣の秩序を乱す邪教である。

問8 下線部(h)に関連して、そんな中で欧米に仏教を紹介した仏教哲学者に鈴木大拙がいる。彼に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 彼は、自らの参禅体験によって会得した禅仏教を英文で海外に紹介すると同時に日本文化と禅の関係についても多くの研究書を残した。
② イギリス留学を経験した彼は、近代的自我の確立に苦しみながらも自己本位の個人主義にたどり着き、晩年は参禅体験を経て自我への囚われから解放された則天去私の境地に至った。
③ 西洋思想に見られる、自己を絶対視してすべてを対象化する思想に違和感を抱いた彼は、東洋思想に見られる、主体と客体とが融合した主客未分の状態に真実を見いだそうとした。
④ 彼は、ハイデガーから学んだ現象学の方法によって人間を間柄的存在と捉え、自と他、個人と社会との弁証法的関係の中に倫理を見いだそうとした。

問9 下線部(i)に関連して、その統制の一つに1906年に出された神社合祀令があるが、各地に残る小規模な神社を統廃合することで、それらに付属していた鎮守の森も破壊されることになった。こうした動きに反対した人たちの中で、民俗学者であると同時に、粘菌の研究でも国際的な評価を得ている人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 柳田国男 ② 柳宗悦 ③ 折口信夫 ④ 南方熊楠

問 10 本文の内容に関する文の正誤の組み合わせとして最も適当なものを下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- ア 鎮護国家の役割を担うことで日本に定着した仏教は、法然の登場によってようやく庶民を視野に入れた救済論を展開するようになった。彼の無学な庶民でもひたすら念仏を称えることで救済されるという大胆な実践論は、他の宗派にも大きな影響を与えた。
- イ 鎌倉仏教の登場で現在に至る各宗派が出そろった仏教は、江戸時代には寺檀制度という幕府による宗教統制を受けることになった。この期には「葬式仏教」としての仏教の役割が定着すると同時に、儒学や国学からの批判にさらされることにもなった。
- ウ 日本古来の神信仰と鋭く対立していた仏教は、平安期の神仏習合によって神々と共存するようになった。しかし、明治の廃仏毀釈によって神仏が厳しく引き離され、国家神道が国教化されるにおよんで仏教は衰退の一途をたどった。

- | | | | | | |
|-------|-----|-----|-------|-----|-----|
| ① アー正 | イー正 | ウー正 | ② アー正 | イー正 | ウー誤 |
| ③ アー正 | イー誤 | ウー誤 | ④ アー正 | イー誤 | ウー正 |
| ⑤ アー誤 | イー正 | ウー誤 | ⑥ アー誤 | イー誤 | ウー誤 |
| ⑦ アー誤 | イー誤 | ウー正 | ⑧ アー誤 | イー正 | ウー正 |

4 次の会話は、倫理大好き高校生が、ヨーロッパ留学から帰国した先輩大学生を訪ねた時のものである。これを読み、以下の問いに答えよ。

- 生徒：先輩、よくぞ欧州から御無事でご帰還なされました！
- 先輩：なんや、その参勤交代から帰った大名にするような挨拶は！しかし、欧州はテロが頻発してて、子どもがパアーンと風船割っただけで、心臓が止まりそうやったわ。
- 生徒：お察しします。ブタの心臓の先輩ですから……。テロは許せませんが、その背景には、実行犯たちを追い込む(a) 貧困や格差など多くの問題があるんでしょね。
- 先輩：そのとおりや。スイスの山道を歩きながらこう考えた。地に這いつくばらせられるような絶望の格差に虐げられていた人びとは、いつの時代にもおる。でもその人たちに暖かい眼差しを向けた人がいたのも事実や。スイスから英国に渡りロンドン塔を訪れて、ここに幽閉、処刑されたトマス・モアを思うたな。彼は著書『ユートピア』の中で格差のない平等な理想社会を描いてる。彼は(b) エラスムスとも交友があったらしいよ。
- 生徒：エラスムスは、その頃(c) ドイツで起こった宗教改革には反対してるんでしょ？
- 先輩：そうらしいな。ルターはドイツ東部の田舎の町で改革を始めたんやが、彼が『95か条の論題』を掲げたお城の教会は町の西の端にあって、彼がいた修道院は東の端にあった。歩いて東西10分ぐらいの小さい町やったわ。
- 生徒：そのあと、欧州では新旧両派に分かれた凄惨な宗教戦争がありましたよね。
- 先輩：あまりの凄まじさにショックを受け、いったい「人間とは何か」を問い直した人たちも現れたぐらいや。私はそのうちの一人(d) パスカルの生誕地フランスのクレルモンに行って、大聖堂の前の彼の生家跡を示すレリーフを見て感慨にひたってたんや。
- 生徒：近代って人間が自分たちの力に目覚め、それを行使して新たな時代を作ったんですよね。宗教戦争のまっただ中の時代に、(e) ベーコンやデカルトが現れたのはすごい！
- 先輩：そうやなあ。でも新たな思考法をいくら考えたところで、社会体制がそのままでは、格差や差別、貧困は解消しないよね。ここで私も知を誇らせてもらおうと、時代的にはフランスのデカルトとイギリスのホブズが重なるんやな。もちろんホブズが現れたのは、当時の無軌道な宗教戦争と無関係やない。彼は混乱の時代を見ながら(f) 新たな社会の在りようを考えたんや。そう言えば、ジュネーブのカルヴァンの寓居から100m足らずのところ、彼の時代から200年後にルソーが生まれた家があったで。
- 生徒：それでも平等な社会は出来ませんでした。イギリスでは功利主義思想が現れましたね。
- 先輩：よう訊いてくれた。ロンドンに点在するロンドン大学のカレッジを探し回って、有名なベンサムベンサムの剥製をやっと見つけたんや。撮影して来た写真見せるわ！！
- その時代のイギリスは(g) 市民革命が一段落し、世界最初の産業革命のただ中であって、彼は(h) 人間の幸福とは何かを懸命に追求したわけや。
- 生徒：産業革命は、社会にいろんな変化を起こしましたね。(i) 資本主義社会の在り方を問題にした社会主義思想、あるいは社会の急激な変化によって非人間的な在り方を強いられている個人の在り方を考え直そうとした実存主義思想などを授業で習いました。
- 先輩：いいね、いいね、君。実存主義が出てくるのん待ってたんや。デンマークにキルケゴールの旧跡を訪ねた時の写真見せるわ。



でも高校生の興味は彼の恋人レギーネやんなあ。元彼キルケゴールのお墓の近くに、今はレギーネ・シュレーゲルの名前でお墓に入っているんや。理由も明かされぬまま婚約を破棄され、人生を翻弄された純情な少女の心情を思い、墓守のおじさんを励まして古い台帳調べ倒してやっとお参り出来たんや。



キルケゴールの墓 (コペンハーゲン)



レギーネの墓 (コペンハーゲン)

生徒：根性ですね、先輩！話を戻しますが、20世紀、21世紀になっても人びとの間の貧困・格差、僕が大嫌いな人種差別など、いっこうに解消されませんね。そういう背景もあってか、なんか今、世界中で、内向きの自国中心主義がはびこっていませんか？

先輩：「(j) ファシズムは微笑みながらやって来る」と言われる。ヒトラーを支持したんは、不満を背景にポピュリズムにあおられた圧倒的多数のドイツ人やった、いうことを忘れたらいかん。第一次世界大戦後、まさかもう戦争は起こらんやろうと思うてて、25年後にまた第二次大戦起こしたんやからな。

生徒：18歳で選挙権を得た若者も含めて不戦の誓いを新たにしないと、あつという間にミリタリズムの渦に放り込まれ、僕たちも神宮外苑を行進しているかもしれませんね。

先輩：・・・。

問1 下線部(a)に関連して。貧困、格差、差別解消に力を尽くした人物の説明として、最も適切なものを、次の①～④から1つ選べ。

- ① アメリカのキング牧師は、すべての人種差別に反対し、アメリカでの活動のあとアフリカに渡り、すべての生命の「生きんとする意志」の尊重を訴えた。
- ② インド出身のアマーティア・センは飢餓や貧困に苦しむ人びとを救うには、単なる財の分配ではなく、その地の人たちの潜在能力の開発こそ大切であると主張した。
- ③ ユダヤ系ドイツ人のハンナ・アーレントは公正としての正義の立場から考えると、人びとの幸福に寄与するならば、奴隷制も許されるべきであると主張した。
- ④ インドで活動したマザー・テレサは、富裕層が時として貧困層にもちいる暴力に対して、暴力で応じることは許されないとして、非暴力不服従運動を訴えた。

問2 下線部(b)に関して。エラスムスはルネサンス最大の人文主義者と言われる。彼の事跡の説明として、最も適切なものを、次の①～④から1つ選べ。

- ① アリストテレスの目的論的自然観を否定し、自然界の事物は機械的な法則にしたがって運動するとする機械論的自然観を説いた。
- ② 人間は神から与えられた自由意志をもちいて、禽獣にも、神のような存在にもなり得ると述べ、虐げられた人びとは自分の力で封建的秩序を克服すべきだと主張した。
- ③ 君主は狐の知恵と獅子の力をもちいて、臆病で恥知らずでわがままな人民を統治すればよいと考えた。また政治と宗教や道徳は切り離し考えねばならないと考えた。
- ④ 聖書を原典に立ち返って精読し、ローマ教会の墮落を批判し、キリスト教を本来の姿に戻すことを訴えた。また、ヒューマンイズムの立場から人間の自由意志を認めた。

問3 下線部(c)に関して。ドイツで起こった宗教改革をめぐる説明として、最も適切なものを次の①～④から選べ。

- ① ドイツでは、免罪符販売に対して疑問を感じたルターが『キリスト教綱要』を発表して抗議した。彼は人が義(正しい)と認められるのは、戒律を守ることもでも免罪符を買うことでもなく、聖書に従って善行をすることによると主張した。
- ② ドイツでは、宗教改革の始まりに呼応するかのようになり、封建的制度や秩序に虐げられて来た農民たちが、農民戦争を起こし社会改革をめざした。ルターは、彼らの主張の根底に宗教改革と同一の精神があるとし、最後まで農民戦争を支持した。
- ③ ドイツでは、ルターによって人の職業は神によって召された天職であるとする考えが主張され、神から与えられた職業に励むことは神の栄光を示す行為であり、その結果得られた利潤は遠慮なく貰えばよいとする蓄財を認める考えが説かれた。
- ④ ドイツでは、ルターによってすべてのキリスト教徒は等しく司祭であると説かれ、神と人との間にあるのは、教会ではなく聖書のみであるとされた。ルターは聖書を人びとのものにするため、聖書のドイツ語訳を行った。



ワルトブルク城内、
ルターがかくまわれていた部屋

問4 下線部(d)に関して、「人間とは何か」についてのパスカルの考えについての説明として最も適当なものを、次の①～④から1つ選べ。

- ① 人間は絶望を前に、あえて目をそらせようとする、と彼は言う。死や悲惨、無知を癒やすことができなかつた人間は、それらから目をそらし、賭け事、恋、戦争、権力などの「気晴らし」に熱中する。
- ② 彼は、著書の中で自分を題材に自己を探究した。そこで彼は「私は何を知るか?」(ク・セ・ジュ?)ということばに行き着いた。知っているでも、知らないでもない、「私は思索している」という懐疑の精神である。
- ③ 人間はひとくきの輩にすぎない。自然の中でもっとも弱い存在である、と考えた彼は人間存在の卑小さ、はかなさを慨嘆し、生きる価値はないと考えた。そのような存在である自分を、生まれては消える蒸気や一滴の水に譬えた。
- ④ 真に学識のある人は麦の穂に例えられる。麦の穂は中身が空っぽであるかぎり、頭を真っ直ぐにあげて、昂然と立っている。成熟してくると穂は穀粒で充満し、頭を低く垂れ始める。知を誇る人間を彼はこのように戒めた。

問5 下線部(e)に関して。ベーコンとデカルトは知識の源泉を何に求めるかについて違った考えを持っていると考えられる。次の文章は、彼らの考えの説明である。(a) ～ (c) に入れる語句の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから1つ選べ。

ベーコンは認識の源を経験に求め実験や観察を繰り返す、そこで得られた事実を整理、吟味し、それに基づいて仮説を立て、一般的法則を導き出す方法をとった。この方法を(a) という。デカルトの方法は違っていた。彼は生まれつき人には良識、つまり理性が備わっていると考え、絶対確実な一般的法則・原理から出発し、理性による推論によって個々の事実を導き出すという方法をとった。そのためにデカルトは、確実な知識はどうやって得られるかを考え、少しでも疑わしいものはすべて疑ってみた。これを(b) と呼ぶ。すべてを疑ったあと彼はたった一つ疑えないものが残るもことに気がついた。それが「考える私」であった。

ベーコンの経験論、デカルトの合理論は近代にふさわしい新しい考えであったが、両者の価値を認めながらも、完全なものでもないと考え、それらを批判的に総合したのが(c) の批判哲学であったといえる。

- | | | |
|---------|---------|----------|
| ① a 演繹法 | b 方法的懐疑 | c コペルニクス |
| ② a 演繹法 | b 方法的懐疑 | c カント |
| ③ a 演繹法 | b 知は力なり | c コペルニクス |
| ④ a 演繹法 | b 知は力なり | c カント |
| ⑤ a 帰納法 | b 方法的懐疑 | c コペルニクス |
| ⑥ a 帰納法 | b 方法的懐疑 | c カント |
| ⑦ a 帰納法 | b 知は力なり | c コペルニクス |
| ⑧ a 帰納法 | b 知は力なり | c カント |

問6 下線部(f)に関して。ホッブズやルソー、さらにはロックは社会契約説を展開している。次のア～ウはそれぞれ誰の考えか。その組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから1つ選べ。

- ア 自然状態において、人間は理性的に行動すると考える。しかし、人間の自然権を侵そうとする力が現れる可能性がある。人びとは、各人の自然権を守るため、契約を結び、その一部を国家に信託すればよい。もし国家が各人の自然権を侵した場合、人びとは抵抗権・革命権を行使し、信託してある自然権を取り戻せばよい。
- イ 自然状態において、人間は本来、自由で平等であった。しかし文明の発達とともに私有の観念が生まれ、社会に支配と隷従、不平等、悪を生んだ。各人は個人の利益を考える意志ではなく、また個人の私的意志の総和を考える意志にでもなく、個人の利益をこえた公共の利益を考える意志に従うべきである。
- ウ 自然状態において、人間は利己的で欲望のまま行動するものである。もし国家がないと仮定した場合、自己保存のための戦いが起こるのであろう。それを防ぐには、各人が自己保存のための自然権を放棄し、一個人あるいは合議体に自然権を委ねる必要がある。国家を人にたとえた場合、その人格を体現するのは国王である。

- | | | | | | |
|-----|-----|---|------|---|------|
| ① ア | ロック | イ | ホッブズ | ウ | スピノザ |
| ② ア | ロック | イ | ホッブズ | ウ | ルソー |
| ③ ア | ロック | イ | ルソー | ウ | ホッブズ |
| ④ ア | ルソー | イ | ホッブズ | ウ | ルソー |
| ⑤ ア | ルソー | イ | ロック | ウ | ホッブズ |
| ⑥ ア | ルソー | イ | ロック | ウ | スピノザ |

問7 下線部(g)に関連して、イギリス革命から100年あまり後、フランス革命が起こっている。その時期に青年期を過ごし、革命の一報を聞いて大興奮した人物にヘーゲルがいる。彼に関する説明として、正しいものの組み合わせとして、最も適当なものを、下の①～⑦から1つ選べ。

- ア 世界の本质は絶対精神であり、絶対精神が地上に現れたものが世界精神である。では歴史とは何か? それは絶対精神が自己展開する過程であると言えよう。そして歴史は偶然の連鎖ではなく、弁証法的に変化し発展していくものである。
- イ 家族とは愛によって結ばれた共同体であるが、個人の人格は独立していない。市民社会は、個人が自らの欲望を追求する「欲望の体系」であるといえる。これら2つの総合つまり個人の自由と全体の意志が統一された、人倫の完成態が国家である。
- ウ 君の人格においてであれ、あるいは他人の人格においてであれ、常にその人間性を目的として扱い、決して手段として扱うことのないよう行動することが大切である。このような理想的な社会を「目的の王国」と呼ぶ。

- | | | | |
|-------|-------|---------|-------|
| ① ア | ② イ | ③ ウ | ④ アとイ |
| ⑤ アとウ | ⑥ イとウ | ⑦ アとイとウ | |

問 8 下線部(h)に関して、次のベンサムの記事を読み、その内容の説明として、最も適切なものを下の①～④から選べ。

自然は人類を快樂と苦痛という、二人の主権者の支配のもとにおいてきた。われわれが何をしなければならぬかということを示し、またわれわれが何をしようかということを決めるのは、ただ苦痛と快樂だけである。・・・功利性の原理はそのような従属を承認して、そのような従属をその思想体系の基礎と考えるのである。そして、その思想体系の目的は、理性と法律の手段によって、幸福の構造を生み出すことである。

・・・功利性の原理とは、その利益が問題になっている人びとの幸福を増大させるように見えるか、それとも減少させるように見えるかの傾向によって、または同じことを別のことばで言い換えたただけであるが、その幸福を促進するようにみえるか、それともその幸福に対立するように見えるかによって、すべての行為を是認し、または否認する原理を意味する。私はすべての行為と言った。したがって、それは一個人のすべての行為だけではなく、政府のすべての政策をも含むのである。

・・・社会とは、いわばその成員を構成すると考えられる個々の人々から形成される、擬制的な団体である。それでは社会の利益とはなんだろうか。それは社会を構成している個々の成員の利益の総計に外ならない。

ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』

- ① 功利性の原理を数的、あるいは量的に考えるのに問題はない。なぜなら個人は一人一人尊重されるわけではなく、社会は個人を越えるのである。社会が個人を越えるものならば、個々の成員の利益より、社会全体の利益を考えるべきである。
- ② われわれの行動を決定するのは快樂と苦痛という、いわば二人の主権者である。したがって、功利性の原理により、われわれ人類は快樂と苦痛という二人の主権者を、われわれ人類に従属させるという幸福の構造を構築することが大切である。
- ③ 功利性の原理は、その利益が問題になっている最も多くの人たちが、最も大きい幸福を享受すべきであることを意味する。そしてこの原理は個人だけではなく、統治に関わる人間の行為にすべてあてはまると考える。
- ④ 功利性の原理は、その利益が問題になっている人びとの利益を増大、あるいは減少させるように見えるかは、言葉の言い換えにすぎないとしている。個人の行為や政府のすべての政策も社会が擬制的な団体である以上、利益には関われないのである。

問 9 下線部(i)に関連して、下の a～d の文章を読み、フリーエとキルケゴールそれぞれに
関係する文章として、最も適切な組み合わせを、下の①～⑧から選べ。

- a 労働者の環境改善のために英国で作った人道主義的経営による工場を「社会改良の聖地」とし、さらにアメリカで社会改革を目指すニューハーモニー村を建設した。
- b 大切なことは、客観的真理を求めることではない。大切なことは、わたしがそのために生き、そのために死にたいと思うような、私にとっての真理である。
- c 近代的理性は、人間が自然を支配する「道具的理性」になってしまった。この道具的理性が人間疎外を生み出しているのである。
- d 貧困・失業・不景気が起こるのは、自由競争という無政府性に原因がある。生産と分配が合理的に行われる理想的な共同体「ファランジュ」を目指すべきである。

- ① a キルケゴール b フリーエ
- ② b キルケゴール d フリーエ
- ③ a フリーエ b キルケゴール
- ④ c フリーエ d キルケゴール
- ⑤ b キルケゴール c フリーエ
- ⑥ a キルケゴール d フリーエ
- ⑦ b フリーエ c キルケゴール
- ⑧ b フリーエ d キルケゴール

問 10 下線部(j)に関して。大衆社会やファシズムの出現について、20 世紀に入り多くの人が分析している。次の文章は誰のものか、最も適切なものを下の①～④から選べ。

(人々に) 共通するのは、個人の方向付けを決定するのが同時代人であるということだ。この同時代人は、かれの直接の知り合いであることもあろうし、また友人やマス・メディアをつうじて間接的に知っている人物であってかまわない。同時代人を人生の指導原理にするということは幼児期からうえつけられているから、その意味では、この原理は「内面化」されている。・・・かれの生涯をつうじてかわらないのは、こうした努力のプロセスそのものと、他者からの信号にたえず細心の注意を払うというプロセスである。他の人びととこうして接触しあっていることから、行動面で同調が生まれる。

- ① リースマン ② フロム ③ ウェーバー ④ ハーバーマス

5 次の生徒と教師の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

生徒：ゴジラシリーズの最新作が話題になっていますね。

教師：庵野秀明監督の「シン・ゴジラ」だよな。一作目の「ゴジラ」が公開されたのが 1954 年、全く同じ年に第五福竜丸の被爆事件が起こっているんだ。そのこともあって、ゴジラは(a)核実験の影響によって生み出されたって設定にされてたけど、今回もそうなのかな。

生徒：そんな設定だったんですね。昔の映画って社会問題を反映したものが多かったんですか。

教師：そうかもしれない。1971 年に公開された「ゴジラ対ヘドラ」のヘドラも(b)環境破壊が原因で生まれた怪獣だしね。もちろん環境破壊自体はそれ以前から存在していたんだろうけど、公害が社会的に大きな問題になり始めたのは、その少し前からだった。ちょうど 1971 年に今の環境省の前身になる環境庁の新設が決められているみたいだね。

生徒：「ゴジラ」以外の特撮映画でもそういう怪獣って登場するんですか？

教師：1966 年から放送された「ウルトラマン」にはジャミラって怪獣が出てくる。ジャミラは東西冷戦中の軍拡競争の被害者とも言える怪獣だよ。その次の年に放送された「ウルトラセブン」でも(c)少数民族の問題に着想を得たような話とかあった。(d)1960 年代から 70 年代って社会問題がテーマになりやすい世の中だったのかな。

生徒：1990 年代以降はそういった社会問題を扱う作品は減っているような気がします。「シン・ゴジラ」を撮った庵野秀明監督の代表作「新世紀エヴァンゲリオン」も社会問題を背景にしているという印象は薄いです。

教師：「エヴァ」が放送されたのって何年だった？

生徒：テレビで放送されたのは、1995 年からです。あの中で描かれているのは、(e)人間が成長していく中で、誰もが抱くような悩みでしょうか。一番のテーマになっているのは「他者との関わり方」ですから。

教師：なるほど、それなら「エヴァ」もある意味では社会問題を背景にしていると言えるんじゃないかな。「ひきこもり」が話題になり始めたのも 90 年代だったからね。でもそういうテーマだと、環境問題とかとは別の意味で、見ていて重苦しい気持ちになりそうだね。

生徒：たしかにそうですね。特に主人公と父親の関係がとても息苦しく描かれています。あれだったら「サマーウォーズ」を見ている方が、田舎のお祖母ちゃんのことを思い出して楽しい気分になれるよ。

教師：ああ、そっちはテレビで見たことがある。家族みんなで協力して、困難に立ち向かっていく話だったよね。舞台になっているのも古い田舎の家屋で、みんなで畳の上に座って食事をする、(f)今は少なくなった昔ながらの家族が描かれているな。

生徒：現実の舞台はそんななのに、戦いの舞台になるのはインターネット上の仮想現実っていうのがまた面白いです。「サマーウォーズ」が公開されたのが 2009 年ですから、2000 年代の(g)情報化社会の進展を背景にしているんでしょうね。あの世界みたいに、何から何まで、全てネット上の仮想現実で行えるようになったら、実際には色々な問題が起こるんでしょうけど。この監督は(h)異なる価値観を理解し合うことで一つの社会で生きていける可能性を信じられるようになる作品も作っているからお勧めですよ。

教師：へえ、それも今度見てみようかな。何にせよ「サマーウォーズ」は夏に再放送する映画の定番になるだろうね。これまではジブリの「火垂るの墓」くらいしかなかったから。もちろん見たことあるよね？

生徒：あれは 8 月 15 日の前後によく再放送されていますよね。あの映画を見て、戦争の悲惨さを突き付けられると、(i)戦争の無い世界を作らないといけないと改めて思います。

教師：ジブリの作品も案外メッセージ色が強いのがあるよね。「風の谷のナウシカ」は科学技

術によって一度滅んでしまった世界が舞台だし、「もののけ姫」は自然を象徴する神々と技術を手にした人間との戦いがテーマだし。この 2 つに共通するのは、(j)科学技術の発展は幸福だけではなく新たな問題を人類にもたらす、ってところかな。

生徒：そうですね。どれも子ども向けの作品に見えますけど、高校生が見ても考えさせられるものがありそうですね。

問 1 下線部(a)に関連して、核兵器の廃絶をアインシュタインと共に訴えた哲学者として、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① クーン ② ウィトゲンシュタイン ③ ラッセル ④ デューイ

問 2 下線部(b)の環境破壊を含めて地球環境と人間の関係を考えていく学問として環境倫理学が存在する。この環境倫理学においては近代的な倫理学を転換するような考え方が提唱されているが、その例として最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 近代思想において自らの行為の責任は自らが負うものであるとされていたが、環境破壊の影響は後の世で生きる人間にも影響を与えるものであるから、現代に生きる人間は、未来の人々に対しても責任を負わなければならない。
- ② 近代思想において権利の主体として想定されていたのは人間のみであったが、そのような考えは人間は動物よりも優越するという種差別に基づくものであるから、人間にとって有用な生物には生きる権利を認めなければならない。
- ③ 近代思想において自然は人間が自由に利用できる資源であると考えられてきたが、地球は閉じた世界であり、資源は有限なのだから、効率よく利用可能な人間のみをそれを用いることができるように制限しなければならない。
- ④ 近代思想において人間は自由な存在であり、自らの利己心に従って行動することが全体としては利益を生むと考えられてきたが、環境問題を解決するためには、一切の経済成長を放棄し、環境保護のために努力しなければならない。

問 3 下線部(c)に関連して、少数民族などこれまで差別されてきた人々に対して行われる「アフーマティブ=アクション」と言われるものがあるが、その具体例として、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 少数民族への差別的な言動が問題になったため、法的に規制する。
- ② 少数民族の生活水準を向上させるため、国の主要な文化を受容させる。
- ③ 少数民族が多く居住する地域において、自治権を保障する。
- ④ 少数民族の大学進学率が低いため、優先して大学入学を認める。

問4 下線部(d)の1960年代から1970年代には世界で起こった様々な問題を解決するため、様々な国際会議が行われたが、それらについて述べたものとして最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 開発により野生生物の生息地域が減少したことを受けて、絶滅の可能性が高い希少動物の国際的取引の規制を目的として、ラムサール条約が締結された。
- ② 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減を目指し、期間と削減量を具体的に規定した法的拘束力を持つ基準が京都議定書において定められた。
- ③ 「かけがえのない地球」をスローガンとした会議が開かれ、各国が環境問題の解決のために協同して努力しなければならないことが確認された。
- ④ 平和な世界を築くためには、互いの人権を尊重することが必要であり、国も個人もそのために努力しなければならないことという宣言が初めて出された。

問5 下線部(e)に関連して、人間が成長する上で重要な時期である青年期の記述として最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① エリクソンは、青年期においては何も努力せずに、遊びにふけるモラトリアムと言われる期間も必要であると考えた。
- ② レヴィンは、青年は子どもと大人の間であり、どちらにも属している不安定な状態であると考え、そのような人々をマージナル=マンと呼んだ。
- ③ ルソーは、第二の誕生という言葉を用いて、青年は各社会に固有のイニシエーションを経ることによって、新たな自分に生まれ変わることができると述べた。
- ④ ミードは、先進国においては教育機関が発達しているため青年期が短いのに対し、途上国においては長くなる傾向があると主張した。

問6 下線部(f)に関連して、現代の日本の家族が置かれている状況についての記述として、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 単身者のみの単独世帯の割合が増え続けているが、これは若者が結婚しなくなったことが最大の原因である。
- ② 核家族化の進展と共に、従来は家族が行っていたことを行う事が困難になったため、家族機能の外部化が進んだとされている。
- ③ 介護保険制度の導入以降、自宅で介護を行う事が容易になったため、祖父母と同居し介護を行う家庭が増えたため、いわゆる老老介護は減少している。
- ④ 配偶者からの暴力を防ぐ目的でDV防止法が制定されているが、対象が殴るや蹴るなどの身体的暴力に限定されている点が問題になっている。

問7 下線部(g)に関連して、情報とメディアについて論じた思想家について述べたものとして、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① マクルーハンは、グーテンベルクによる活版印刷の発明が人間の思考能力に大きな影響を与えたと考え、活字文化の誕生が人間の抽象的思考力を衰退させてきたと主張した。
- ② ブーアスティンは、メディアは現実を再構成して伝達するため、その内容は現実が起こったこと以上に刺激的でリアルになるということを疑似環境という概念を用いて説明した。
- ③ リップマンは、人々がメディアを通じて情報を受け取る時、自らが持っている何らかの類型に従って受け取っていることを指摘し、その類型のことをステレオタイプと呼んだ。
- ④ マルクーゼは、マス=メディアの発達は上位の人間に盲従しながら、下位の人間に服従を求める人間を生み出すと考え、そのような人間を一元的人間と呼んで、現代の社会に警鐘を鳴らした。

問8 下線部(h)に関連して、異文化理解や多文化共生に関わる言葉についての説明文の正誤の組み合わせとして、最も適当なものを下の①～⑧から選べ。

- ア エスノセントリズムとは、自民族の文化や価値観の優越を確信し、他民族の文化を劣ったものとして否定する立場である。
- イ オリエンタリズムとは、西洋人は西洋中心的な価値観を脱却し、東洋文化の優れた点に学ばなければならないとする立場である。
- ウ 多文化主義とは、文化間に優劣を認めず、一つの社会の中に、異なる文化を持つ者たちが互いに干渉せずに生きることが望ましいとする立場である。

- ① ア-正 イ-正 ウ-正 ② ア-正 イ-正 ウ-誤 ③ ア-正 イ-誤 ウ-正
- ④ ア-誤 イ-正 ウ-正 ⑤ ア-誤 イ-誤 ウ-正 ⑥ ア-誤 イ-正 ウ-誤
- ⑦ ア-正 イ-誤 ウ-誤 ⑧ ア-誤 イ-誤 ウ-誤

問9 下線部(i)に関連して、戦争と平和について述べた以下の文章から読み取れる内容として、最も適当なものを下の①～④から選べ。

常備軍は、時とともに全廃されなければならない。なぜなら、常備軍はいつでも武装して出撃する準備を整えていることによって、他の諸国をたえず戦争の脅威にさらしているからである。常備軍が刺激となって、互いに無制限な軍備の拡大を競うようになると、それに費やされる軍事費の増大で、ついには平和の方が短期の戦争よりもいっそう重荷となり、この重荷を逃れるために、常備軍そのものが先制攻撃の原因となるのである。その上、人を殺したり人に殺されたりするために雇われることは、人間がたんなる機械や道具として他のものの手で使用されることを含んでいると思われるが、こうした使用は、われわれ自身の人格における人間性の権利とおよそ調和しないであろう。だが国民が自発的に一定期間にわたって武器使用を練習し、自分や祖国を外からの攻撃に対して防備することは、これとはまったく別の事柄である。

『永遠平和のために』

- ① 国家を超えた国際的な連合を組織することによって、常備軍を持つ国家が互いに争う事が無いように監視することが戦争をなくすためには必要である。
- ② この世界から戦争を無くすことが、人間が人間らしく生きるためには必要なことであるから、それぞれの国家が互いに均衡した力の常備軍を持つことが重要である。
- ③ 常備軍は存在するだけで戦争の原因となるものであるから、常備軍を撤廃して、どのような状況でも戦いという手段を取らない事が平和への道である。
- ④ 戦争という状況が人間が互いを手段として用いる非人間的な事柄であるから、そのようことが起こらないように戦争の原因となる常備軍を撤廃すべきである。

問10 下線部(j)の一例として、医療技術の進歩に伴う出来事について述べたものとして、最も適当なものを次の①～④から選べ。

- ① 高度な延命治療が可能になったが、自らの QOL を重視して、延命を目的とするのではないターミナル=ケアを選択する人々も現れた。
- ② 延命治療を中止して死を迎える消極的安楽死は日本において法律で認められているが、薬物を投与することで死期を早める積極的安楽死は殺人にあたる。
- ③ 技術の発展により、患者が自らの治療についての情報を理解することが困難になったため、近年はパートナーリズムの立場が見直されている。
- ④ 日本やヨーロッパ諸国など多くの国でクローン人間の作製は禁止されているが、受精卵から作製される iPS 細胞については認められている。